

令和7年12月24日
北九州市保健福祉局
北九州市総務市民局

報道機関 各位

「障害福祉施策について」の調査を行いました
～令和7年度第8回市政モニターアンケート～

1 調査案件

第8回「障害福祉施策について」
(保健福祉局障害福祉企画課)

2 公表資料

第8回「障害福祉施策について」
(保健福祉局障害福祉企画課)
⇒ 結果概要及び調査報告書(別添のとおり)

3 参考資料

「市政モニター制度」について(別添のとおり)

【問い合わせ先】

■ 調査案件の内容について

《第8回》「障害福祉施策について」
保健福祉局障害福祉企画課
093-582-2453 大森、山口

■ 市政モニター制度について

総務市民局広聴課
093-582-2527 森部、南谷

<p>市政モニターに関すること 総務市民局広聴課 担当：森部、南谷 TEL：093-582-2527</p>	<p>アンケート内容に関すること 保健福祉局障害福祉企画課 担当：大森、山口 TEL：093-582-2453</p>
--	---

令和7年12月24日

令和7年度 第8回市政モニターアンケート
「障害福祉施策について」
結果概要

本市では、「(仮称)北九州市障害者支援計画改定版」を、令和8年度中に策定する予定です。
そこで、障害福祉施策に関する市民の意見やご要望を伺い、その結果を本計画の基礎資料とするとともに、今後の本市の障害福祉施策の推進の参考とするため、障害福祉施策についてのアンケート調査を実施しました。

I 調査概要

調査対象者 市政モニター102人（うち、回答者88人 回収率86.3%）
調査実施日 令和7年10月1日～令和7年10月14日
実施方法 インターネット調査

II 調査結果概要

(1) 障害のある人への理解や関心について

■障害のある人に接したり交流したりした経験がある人の割合は88.6%となっています。

障害のある人に接したり、交流したりした内容は、「仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(51.3%)の割合が最も高く、次いで「身内や親しい人に障害のある人がいる。または、過去、いたことがある」(41.0%)の割合となっています。

■障害福祉への関心度は、「大変関心がある」(20.5%)と「ある程度関心がある」(52.3%)を合わせると72.8%となっています。

関心がある理由としては、「身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(43.8%)が最も高く、次いで「自分も障害のある人になる可能性がある」(35.9%)の順となっています。

■障害のある人に対する差別や偏見などを感じる人がいる人の割合は、「よく感じる」と「ときどき感じる人がいる」を合わせると、身体障害のある人(42.1%)、知的障害のある人(55.7%)、精神障害のある人(56.9%)、発達障害のある人(53.5%)、難病患者の人(28.4%)となっています。

差別や偏見などを感じる具体的な内容としては、「仕事や収入」(52.5%)がもっとも高く、次いで「公共施設、交通機関」(42.4%)の順となっています。

(2) 北九州市障害福祉施策の取り組み状況について

■障害福祉施策の取り組みに対する評価等について、3つの項目について尋ねたところ、以下のような結果であった。

【障害のある人の雇用・就業機会の確保と拡大】

障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと「感じている」人の割合（「どちらかといえばそう感じている」を含む。）は28.4%、「感じていない」人の割合（「どちらかといえばそう感じていない」を含む。）は14.8%となっています。

【障害者差別解消法や北九州市障害者差別解消条例の周知】

障害者差別解消法や本市の障害者差別解消条例については、「知っている」人の割合（「聞いたことがあるが内容は知らない」を含む。）は、39.8%であり、「知らない」人の割合は60.2%となっています。

【障害のある人の人権の尊重】

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じるかについては、「そう感じている」人の割合（「どちらかといえばそう感じている」を含む。）は25.0%、「感じていない」人の割合（「どちらかといえばそう感じていない」を含む。）は23.8%となっています。

(3) 共生社会を実現させるための取り組みについて

■今後、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、自分自身が地域の一員としてできると思うことについては、「外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声をかけや手助けをする」(64.8%) が最も多く、次いで「障害者施設等で作ったものを購入する」(37.5%) の順となっています。

■障害福祉施策を充実させるために今後さらに力を入れるべき取り組みについては、「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」(56.8%) と最も高く、次いで「企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する」(53.4%)、「障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(47.7%)、の順となっています。

令和7年度
第8回市政モニターアンケート

「障害福祉施策について」

総務市民局広聴課

目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
1. 障害のある人への理解や関心について	2
2. 北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について	15
3. 共生社会を実現するための取り組みについて	18
IV 全体考察	23

I 調査の概要

調査対象者	市政モニター102人		
回答者数	88人（回収率86.3%）		
調査実施日	令和7年10月1日～令和7年10月14日		
実施方法	インターネット調査		
調査実施課	総務市民局広聴課	TEL093-582-2527	
調査依頼課	保健福祉局障害福祉企画課	TEL093-582-2453	

II 市政モニターの構成

	合計	男性	女性		合計	男性	女性
全体	102 (100.0%)	44 (43.1%)	58 (56.9%)	区 別			
10歳代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	門司区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
20歳代	6 (5.9%)	4 (3.9%)	2 (2.0%)	小倉北区	21 (20.6%)	11 (10.8%)	10 (9.8%)
30歳代	14 (13.7%)	4 (3.9%)	10 (9.8%)	小倉南区	21 (20.6%)	8 (7.8%)	13 (12.7%)
40歳代	22 (21.6%)	7 (6.9%)	15 (14.7%)	若松区	4 (3.9%)	1 (1.0%)	3 (2.9%)
50歳代	24 (23.5%)	5 (4.9%)	19 (18.6%)	八幡東区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
60歳代	26 (25.5%)	17 (16.7%)	9 (8.8%)	八幡西区	23 (22.5%)	8 (7.8%)	15 (14.7%)
70歳以上	10 (9.8%)	7 (6.9%)	3 (2.9%)	戸畑区	7 (6.9%)	2 (2.0%)	5 (4.9%)

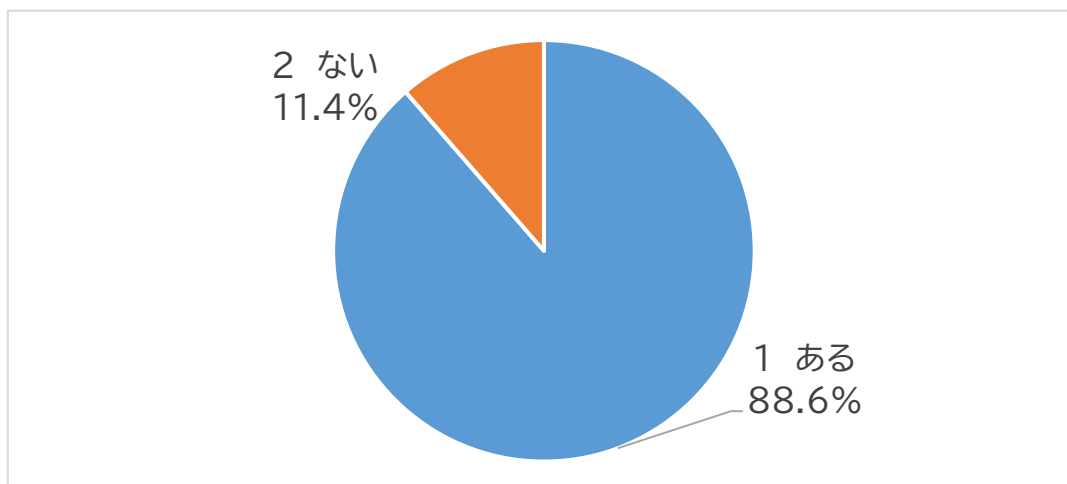
※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としており、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

※ 年代は令和7年4月1日時点でのものです。

Ⅲ 調査結果

1. 障害のある人への理解や関心について

問1 あなたは、今までに障害のある人に接したり、交流したりした経験がありますか。

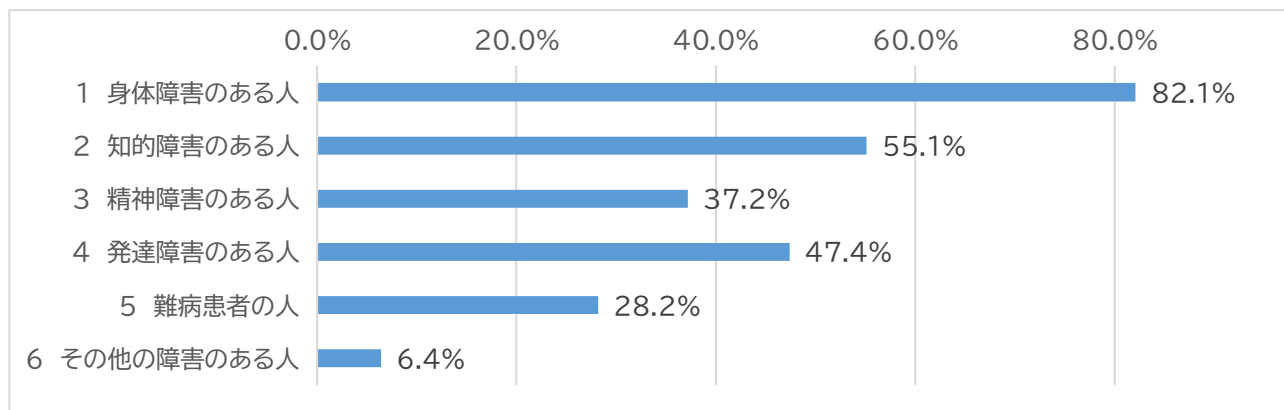


		回答者数	1 ある	2 ない
全 体		88 人	88.6%	11.4%
性 別	男 性	40 人	82.5%	17.5%
	女 性	48 人	93.8%	6.2%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	100.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	90.9%	9.1%
	40 歳代	19 人	84.2%	15.8%
	50 歳代	22 人	90.9%	9.1%
	60 歳代	22 人	81.8%	18.2%
	70 歳以上	10 人	100.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12 人	100.0%	0.0%
	小倉北区	19 人	84.2%	15.8%
	小倉南区	17 人	94.1%	5.9%
	若 松 区	4 人	100.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	72.7%	27.3%
	八幡西区	18 人	94.4%	5.6%
	戸 畑 区	7 人	71.4%	28.6%

障害のある人に接したり、交流したりした経験が「ある」は、88.6%で、年齢別では、20 歳代以下と 70 歳以上が 100. 0%と最も高くなっています。

問2 <問1で「1 ある」と答えた方におたずねします>

それはどのような障害のある人に接したり、交流したりしたのですか(○はいくつでも)

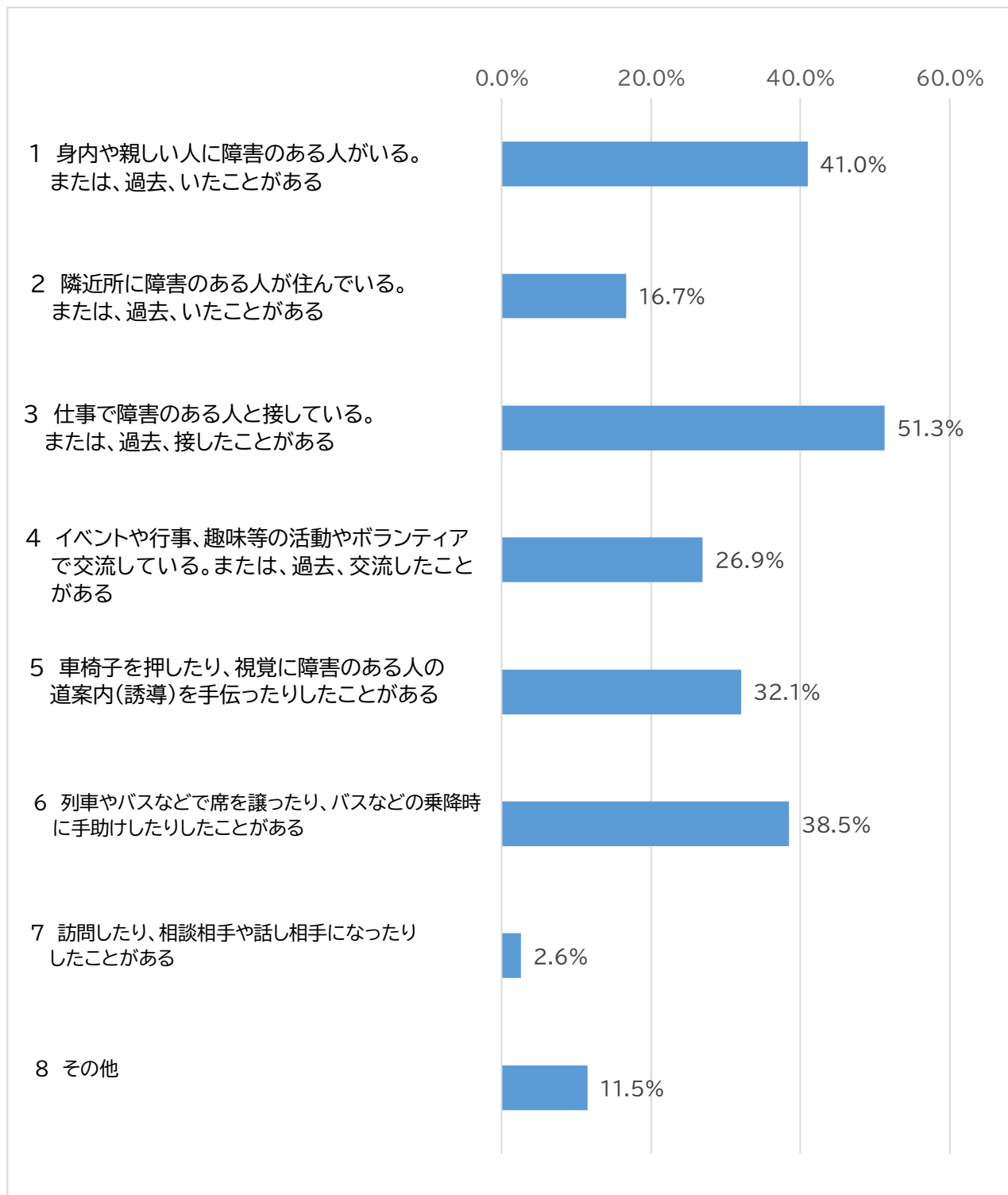


		回答者数	1 身体障害のある人	2 知的障害のある人	3 精神障害のある人	4 発達障害のある人	5 難病患者の人	6 その他の障害のある人
全 体		78 人	82.1%	55.1%	37.2%	47.4%	28.2%	6.4%
性 別	男 性	33 人	81.8%	51.5%	21.2%	42.4%	18.2%	12.1%
	女 性	45 人	82.2%	57.8%	48.9%	51.1%	35.6%	2.2%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	75.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	10 人	80.0%	70.0%	50.0%	60.0%	30.0%	10.0%
	40 歳代	16 人	75.0%	50.0%	56.3%	56.3%	31.3%	0.0%
	50 歳代	20 人	90.0%	60.0%	40.0%	55.0%	35.0%	35.0%
	60 歳代	18 人	72.2%	50.0%	38.9%	50.0%	33.3%	11.1%
	70 歳以上	10 人	100.0%	20.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12 人	91.7%	16.7%	50.0%	58.3%	25.0%	25.0%
	小倉北区	16 人	75.0%	62.5%	31.3%	37.5%	25.0%	0.0%
	小倉南区	16 人	81.3%	68.8%	43.8%	50.0%	37.5%	0.0%
	若 松 区	4 人	100.0%	100.0%	50.0%	75.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	8 人	75.0%	50.0%	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%
	八幡西区	17 人	88.2%	58.8%	23.5%	47.1%	23.5%	5.9%
	戸 畑 区	5 人	60.0%	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%

障害のある人に接したり、交流したりした経験では、「1 身体障害のある人」との交流等が82.1%と最も高くなっています。

年齢別では、70 歳以上が 100.0%と最も高くなっています。

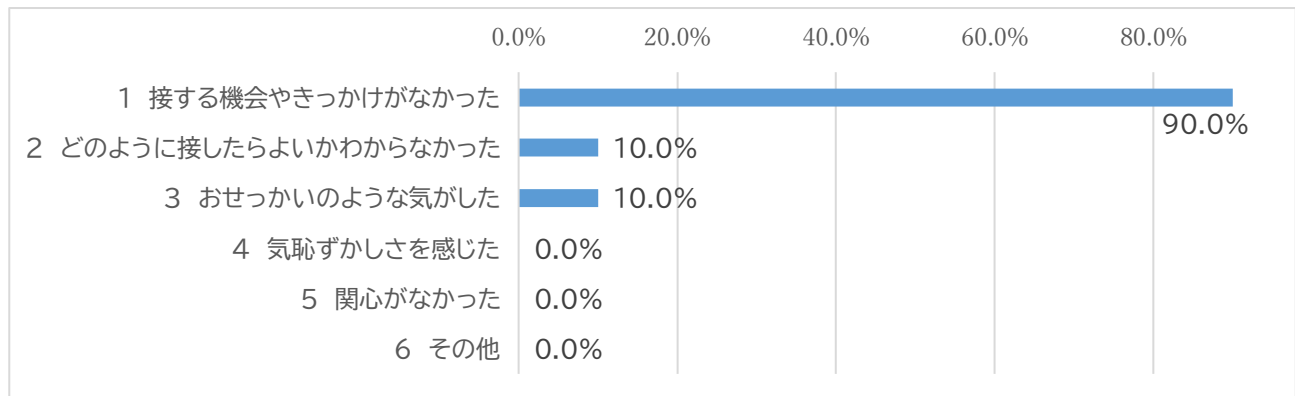
問3 <問1で「1 ある」と答えた方におたずねします>
それは具体的にどのようなことですか(○はいくつでも)



		回答者数	1 身内 や親しい 人に障害 のある人 がいる。 または、 過去、いた ことがある	2 隣近 所に障害 のある人 が住んで いる。また は、過去、いた ことがある	3 仕事 で障害の ある人と 接している。 または、過去、接した ことがある	4 イベントや行事、趣味 等の活動 やボラン ティアで 交流して いる。また は、過去、交流 したことがある	5 車椅子 を押したり、視 覚に障害 のある人 の道案内 (誘導)を 手伝ったりした ことがある	6 列車 やバスな どで席を 譲ったり、バス などの乗 降時に手 助けしたりした ことがある	7 訪問 したり、 相談相手 や話し相 手になっ たりした ことがある	8 その他
全 体		78 人	41.0%	16.7%	51.3%	26.9%	32.1%	38.5%	2.6%	11.5%
性 別	男 性	33 人	36.4%	21.2%	45.5%	24.2%	24.2%	45.5%	6.1%	18.2%
	女 性	45 人	44.4%	13.3%	55.6%	28.9%	37.8%	33.3%	0.0%	6.7%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	50.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	10 人	40.0%	20.0%	80.0%	30.0%	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%
	40 歳代	16 人	50.0%	6.3%	37.5%	37.5%	31.3%	31.3%	0.0%	0.0%
	50 歳代	20 人	45.0%	30.0%	55.0%	20.0%	40.0%	50.0%	5.0%	5.0%
	60 歳代	18 人	27.8%	11.1%	55.6%	16.7%	44.4%	38.9%	0.0%	33.3%
	70 歳以上	10 人	40.0%	10.0%	50.0%	30.0%	0.0%	30.0%	0.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12 人	75.0%	25.0%	33.3%	33.3%	41.7%	41.7%	8.3%	8.3%
	小倉北区	16 人	12.5%	12.5%	50.0%	31.3%	18.8%	37.5%	6.3%	25.0%
	小倉南区	16 人	25.0%	25.0%	75.0%	18.8%	37.5%	37.5%	0.0%	18.8%
	若 松 区	4 人	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	50.0%	75.0%	0.0%	25.0%
	八幡東区	8 人	50.0%	0.0%	62.5%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	17 人	58.8%	23.5%	47.1%	23.5%	35.3%	17.6%	0.0%	0.0%
	戸 畑 区	5 人	60.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	60.0%	0.0%	0.0%

障害のある人に接したり、交流したりした経験の具体的な内容は、「3 仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(51.3%)が最も高く、次いで「1 身内や親しい人に障害のある人がいる。または、過去、いたことがある」(41.0%)の順となっています。

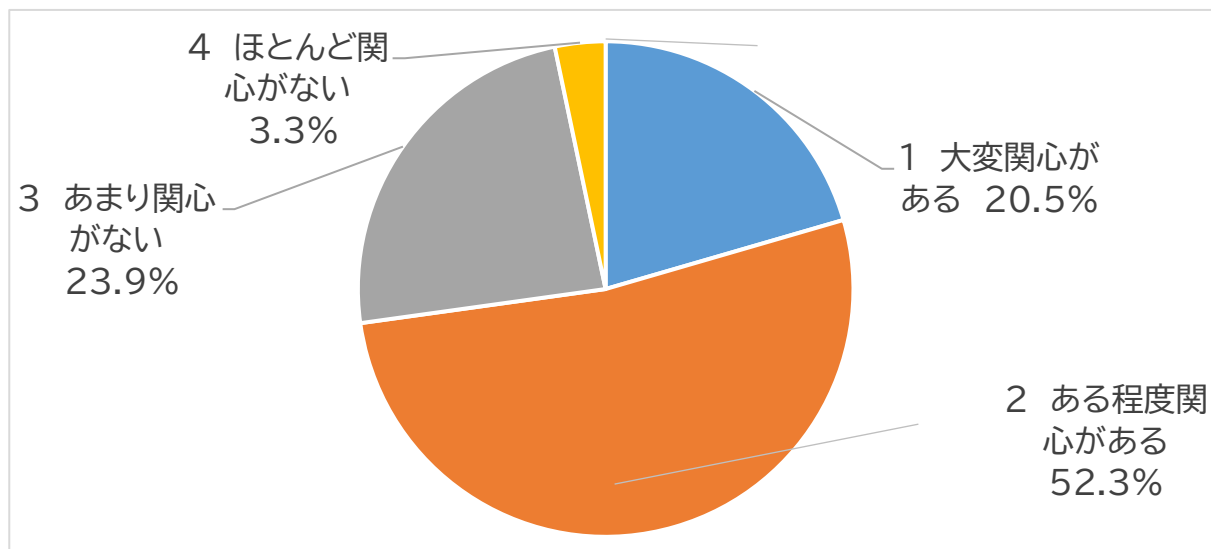
問4 <問1で「2 ない」と答えた方におたずねします>
 接した経験がない理由は何ですか(〇はいくつでも)



		回答者数	1 接する機会やきっかけがなかった	2 どのように接したらよいかわからなかった	3 おせっかいのような気がした	4 気恥ずかしさを感じた	5 関心がなかった	6 その他
全 体		10 人	90.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
性 別	男 性	7 人	85.7%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	女 性	3 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年 齢 別	20 歳代以下	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	1 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40 歳代	3 人	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	50 歳代	2 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60 歳代	4 人	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70 歳以上	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区 別	門 司 区	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	3 人	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	小倉南区	1 人	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	若 松 区	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	3 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	1 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	戸 畑 区	2 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

障害のある人に接したり、交流したりしたことがない理由として、多くの方が「1 接する機会やきっかけがなかった」(90.0%)と回答しています。なお、「5 関心がなかった」と回答した方は 0.0%でした。

問5 あなたは、障害福祉に関心をお持ちですか(○は1つだけ)

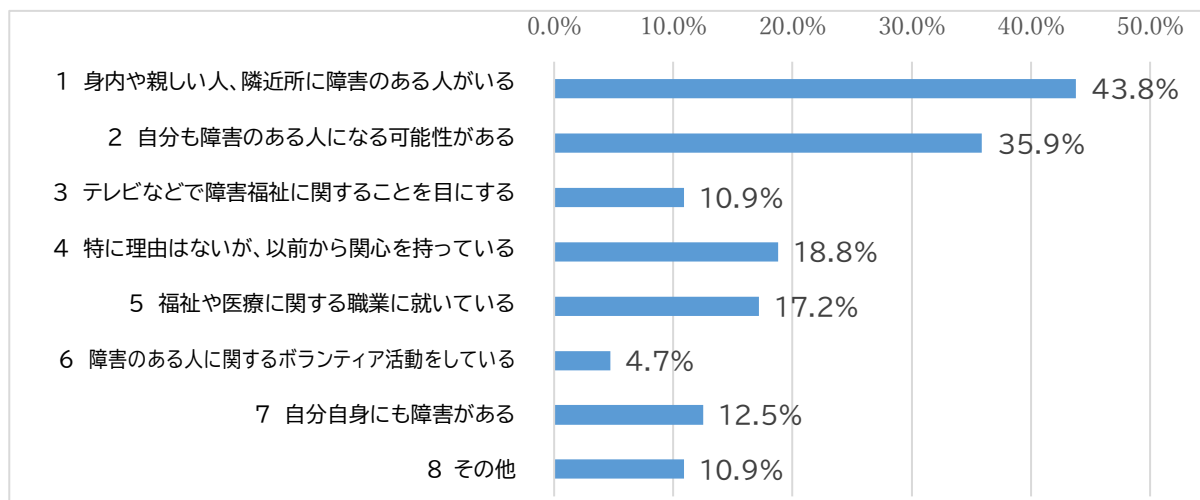


		回答者数	1 大変関心がある	2 ある程度関心がある	3 あまり関心がない	4 ほとんど関心がない
全 体		88 人	20.5%	52.3%	23.9%	3.3%
性 別	男 性	40 人	15.0%	52.5%	30.0%	2.5%
	女 性	48 人	25.0%	52.1%	18.8%	4.1%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%
	30 歳代	11 人	27.3%	54.5%	9.1%	9.1%
	40 歳代	19 人	26.3%	52.6%	15.8%	5.3%
	50 歳代	22 人	13.6%	59.1%	27.3%	0.0%
	60 歳代	22 人	22.7%	50.0%	27.3%	0.0%
	70 歳以上	10 人	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12 人	25.0%	66.7%	0.0%	8.3%
	小倉北区	19 人	21.1%	52.6%	21.1%	5.2%
	小倉南区	17 人	23.5%	35.3%	41.2%	0.0%
	若 松 区	4 人	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	63.6%	27.3%	0.0%
	八幡西区	18 人	16.7%	55.6%	27.7%	0.0%
	戸 畑 区	7 人	42.9%	28.6%	14.3%	14.2%

「1 大変関心がある」(20.5%)、「2 ある程度関心がある」(52.3%)を合わせ 72.8%が障害福祉に関心を持っているとの回答でした。

年代別でみると、「1 大変関心がある」、「2 ある程度関心がある」を合わせた割合は 30 歳代が 81.8%と最も高くなっています。

問6 <問5で「1 大変関心がある」または、「2 ある程度関心がある」と答えた方におたずねします>
 どのような理由から関心をお持ちですか(○はいくつでも)

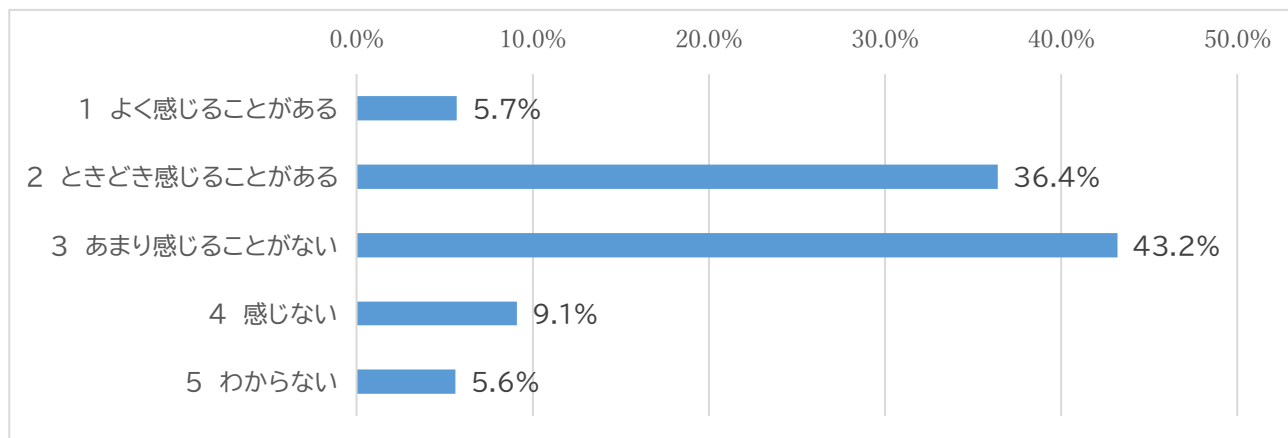


	回答者数	1 身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる	2 自分も障害のある人になる可能性がある	3 テレビなどで障害に関することを目にする	4 特に理由はないが、以前から関心を持っている	5 福祉や医療に関する職業に就いている	6 障害のある人に関するボランティア活動をしている	7 自分自身にも障害がある	8 その他
全 体	64人	43.8%	35.9%	10.9%	18.8%	17.2%	4.7%	12.5%	10.9%
性 別									
男 性	27人	40.7%	33.3%	7.4%	18.5%	7.4%	11.1%	11.1%	25.9%
女 性	37人	45.9%	37.8%	13.5%	18.9%	24.3%	0.0%	13.5%	0.0%
年 齢 別									
20歳代以下	1人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	9人	33.3%	44.4%	0.0%	22.2%	33.3%	0.0%	11.1%	11.1%
40歳代	15人	40.0%	46.7%	13.3%	13.3%	20.0%	0.0%	13.3%	0.0%
50歳代	16人	56.3%	18.8%	12.5%	25.0%	12.5%	6.3%	18.8%	12.5%
60歳代	16人	43.8%	43.8%	18.8%	18.8%	12.5%	12.5%	6.3%	18.8%
70歳以上	7人	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%
区 別									
門 司 区	11人	72.7%	54.5%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
小倉北区	14人	28.6%	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	14.3%	21.4%
小倉南区	10人	40.0%	30.0%	10.0%	30.0%	20.0%	10.0%	10.0%	10.0%
若 松 区	3人	33.3%	33.3%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%
八幡東区	8人	37.5%	50.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%
八幡西区	13人	46.2%	46.2%	23.1%	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
戸 畑 区	5人	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%

どのような理由から障害福祉に関心を持ったかについては、「1 身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(43.8%)が最も高く、次いで「2 自分も障害のある人になる可能性がある」(35.9%)の順となっています。

問7 あなたは、日常生活や地域で障害のある人に対する差別・偏見などを感じることがありますか
(○は各々1つだけ)

(1)身体障害のある人に対して



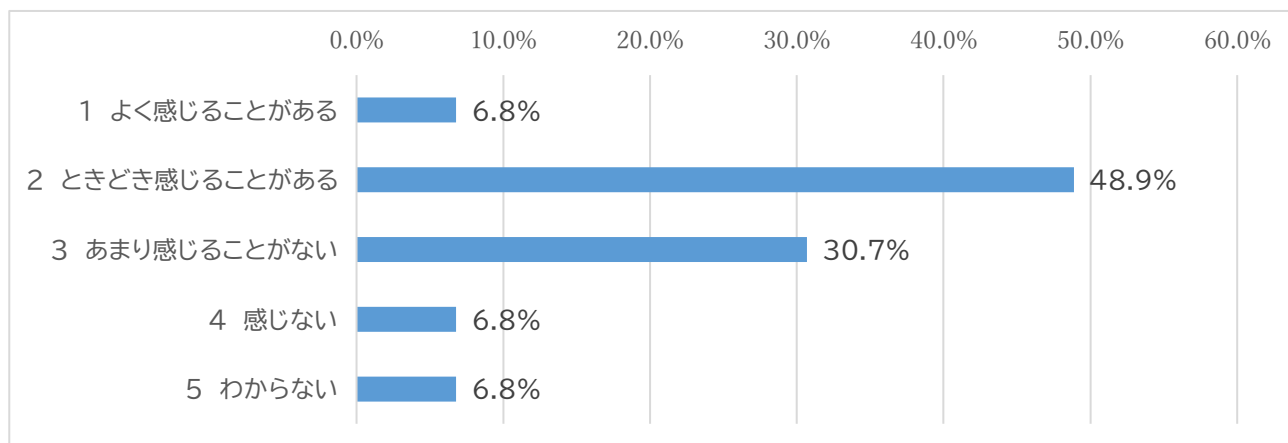
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 ときどき感 じることが ある	3 あま り感じる ことがな い	4 感じ ない	5 わか らない
全 体		88 人	5.7%	36.4%	43.2%	9.1%	5.6%
性 別	男 性	40 人	5.0%	22.5%	57.5%	12.5%	2.5%
	女 性	48 人	6.3%	47.9%	31.3%	6.3%	8.2%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	0.0%	27.3%	45.5%	18.2%	9.0%
	40 歳代	19 人	5.3%	42.1%	36.8%	5.3%	10.5%
	50 歳代	22 人	9.1%	36.4%	36.4%	9.1%	9.0%
	60 歳代	22 人	4.5%	40.9%	45.5%	9.1%	0.0%
	70 歳以上	10 人	0.0%	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12 人	8.3%	41.7%	50.0%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19 人	5.3%	47.4%	31.6%	15.7%	0.0%
	小倉南区	17 人	5.9%	23.5%	58.8%	11.8%	0.0%
	若 松 区	4 人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	27.3%	72.7%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18 人	5.6%	33.3%	44.4%	5.6%	11.1%
	戸 畑 区	7 人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

日常生活や地域で(1)身体障害のある人に対する差別・偏見などを「1 よく感じることもある」(5.7%)と「2 ときどき感じることもある」(36.4%)を合わせて、42.1%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」との回答のうち、年代別では 20歳代以下が 50.0%と最も高くなっています。

問7

(2)知的障害のある人に対して



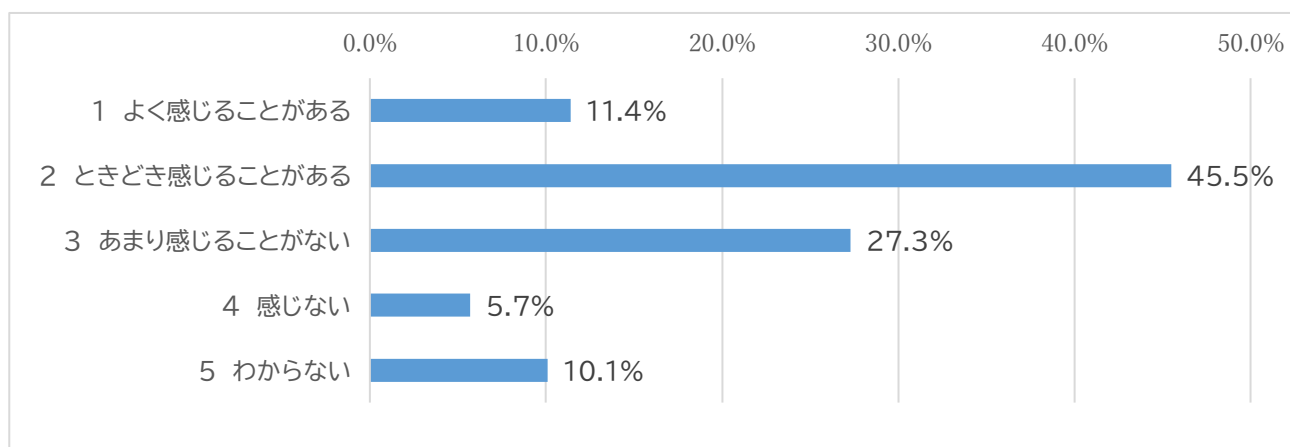
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 ときどき感じる ことがある	3 あまり感じる ことがない	4 感じ ない	5 わか らない
全 体		88 人	6.8%	48.9%	30.7%	6.8%	6.8%
性 別	男 性	40 人	7.5%	37.5%	40.0%	7.5%	7.5%
	女 性	48 人	6.3%	58.3%	22.9%	6.3%	6.2%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	18.2%	45.5%	9.1%	18.2%	9.0%
	40 歳代	19 人	5.3%	47.4%	31.6%	5.3%	10.4%
	50 歳代	22 人	4.5%	50.0%	31.8%	4.5%	9.2%
	60 歳代	22 人	4.5%	54.5%	31.8%	4.5%	4.7%
	70 歳以上	10 人	0.0%	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12 人	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	小倉北区	19 人	5.3%	57.9%	31.6%	5.2%	0.0%
	小倉南区	17 人	0.0%	58.8%	29.4%	11.8%	0.0%
	若 松 区	4 人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18 人	11.1%	33.3%	33.3%	5.6%	16.7%
	戸 畑 区	7 人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

(2)知的障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(6.8%)と「2 ときどき感じることもある」(48.9%)を合わせて、55.7%となっています。

年代別にみると 30歳代が「1 よく感じることもある」(18.2%)と「2 ときどき感じることもある」(45.5%)を合わせて 63.7%と最も高くなっています。

問7

(3)精神障害のある人に対して



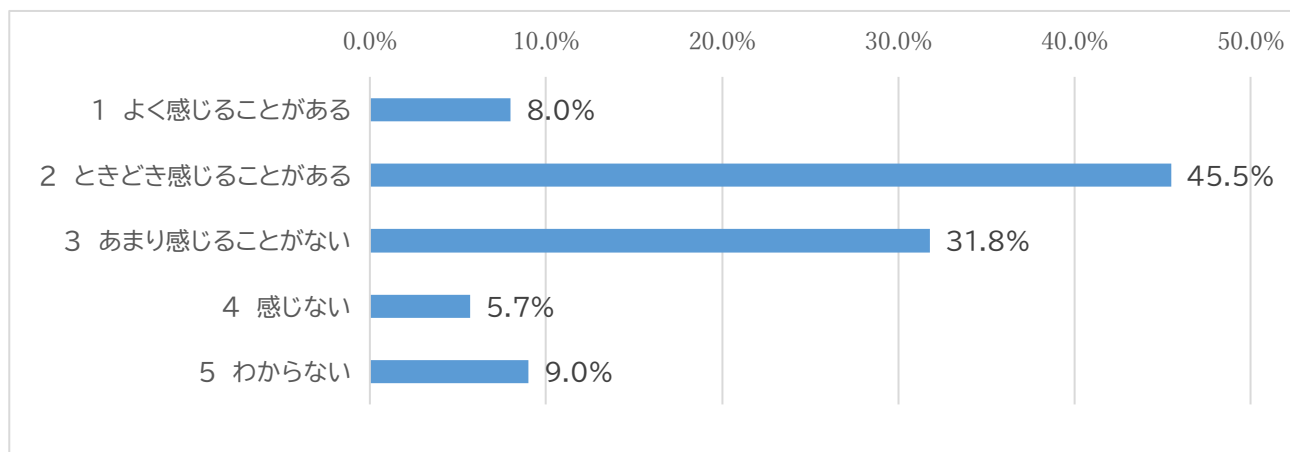
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 ときどき感 じることが ある	3 あま り感じる ことがな い	4 感じ ない	5 わか らない
全 体		88 人	11.4%	45.5%	27.3%	5.7%	10.1%
性 別	男 性	40 人	12.5%	37.5%	37.5%	2.5%	10.0%
	女 性	48 人	10.4%	52.1%	18.8%	8.3%	10.4%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	36.4%	36.4%	0.0%	18.2%	9.0%
	40 歳代	19 人	10.5%	47.4%	21.1%	5.3%	15.7%
	50 歳代	22 人	4.5%	50.0%	27.3%	4.5%	13.7%
	60 歳代	22 人	4.5%	50.0%	36.4%	4.5%	4.6%
	70 歳以上	10 人	10.0%	40.0%	40.0%	0.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12 人	25.0%	41.7%	25.0%	0.0%	8.3%
	小倉北区	19 人	10.5%	57.9%	26.3%	0.0%	5.3%
	小倉南区	17 人	5.9%	58.8%	17.6%	11.8%	5.9%
	若 松 区	4 人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18 人	16.7%	22.2%	38.9%	5.6%	16.6%
	戸 畑 区	7 人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

(3)精神障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(11.4%)と「2 ときどき感じることもある」(45.5%)を合わせて、56.9%となっています。

年代別にみると 30歳代が「1 よく感じることもある」(36.4%)と「2 ときどき感じることもある」(36.4%)を合わせて 72.8%と最も高くなっています。

問7

(4)発達障害のある人に対して



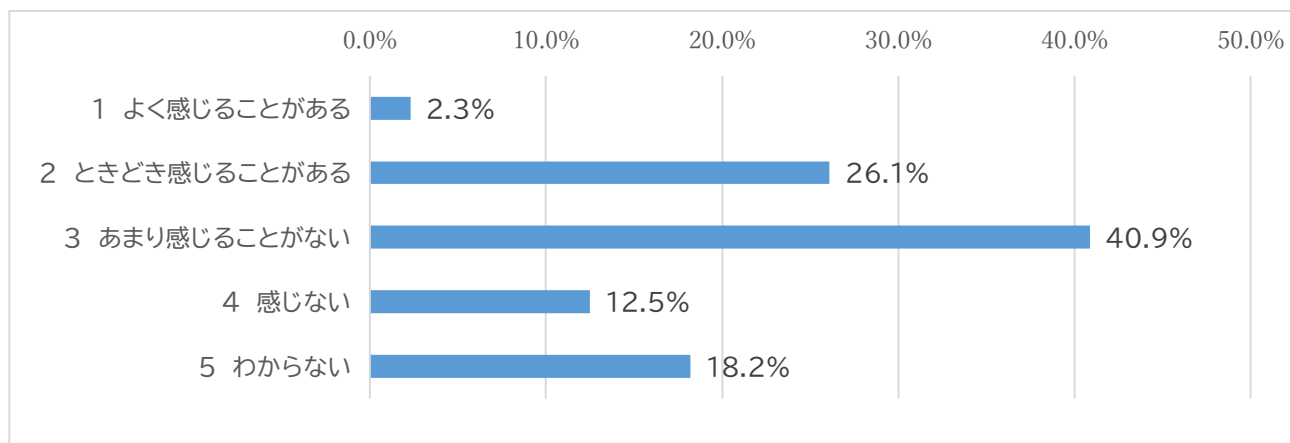
		回答者数	1 よく感じることもある	2 ときどき感じることもある	3 あまり感じることはない	4 感じない	5 わからない
全 体		88 人	8.0%	45.5%	31.8%	5.7%	9.0%
性別	男 性	40 人	12.5%	30.0%	42.5%	5.0%	10.0%
	女 性	48 人	4.2%	58.3%	22.9%	6.3%	8.3%
年齢別	20 歳代以下	4 人	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	18.2%	45.5%	18.2%	9.1%	9.0%
	40 歳代	19 人	5.3%	47.4%	31.6%	5.3%	10.4%
	50 歳代	22 人	4.5%	54.5%	27.3%	4.5%	9.2%
	60 歳代	22 人	9.1%	40.9%	36.4%	4.5%	9.1%
	70 歳以上	10 人	0.0%	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%
区別	門 司 区	12 人	16.7%	58.3%	16.7%	0.0%	8.3%
	小倉北区	19 人	10.5%	52.6%	36.9%	0.0%	0.0%
	小倉南区	17 人	0.0%	52.9%	35.3%	11.8%	0.0%
	若 松 区	4 人	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	36.4%	63.6%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18 人	11.1%	33.3%	33.3%	5.6%	16.7%
	戸 畑 区	7 人	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	42.8%

(4)発達障害のある人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(8.0%)と「2 ときどき感じることもある」(45.5%)を合わせて、53.5%となっています。

年代別にみると 30歳代が「1 よく感じることもある」(18.2%)と「2 ときどき感じることもある」(45.5%)を合わせて 63.7%と最も高くなっています。

問7

(5)難病患者の人に対して



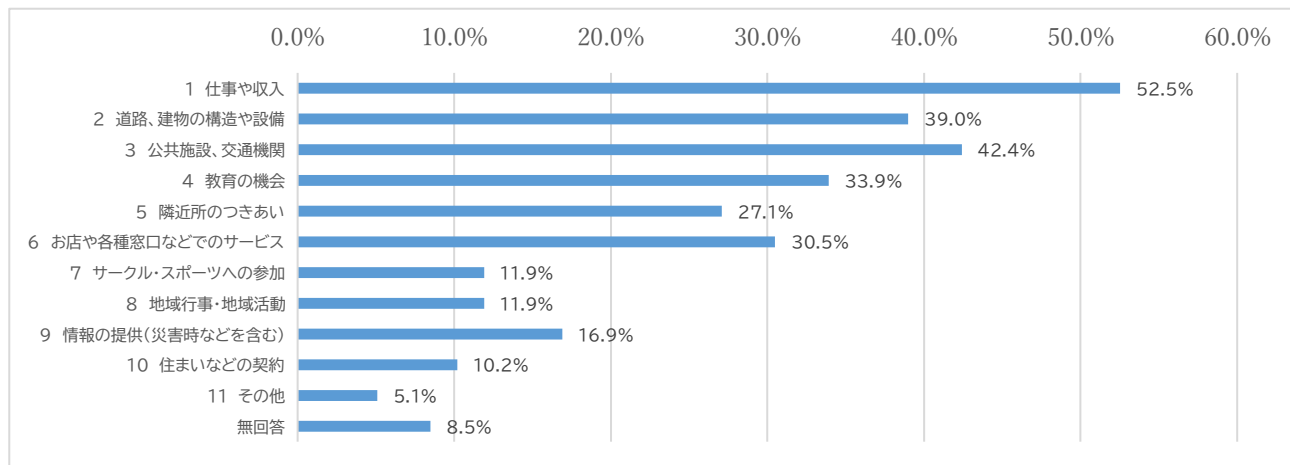
		回答者数	1 よく感じる ことがある	2 ときどき感 じることが ある	3 あま り感じる ことがな い	4 感じ ない	5 わか らない
全 体		88 人	2.3%	26.1%	40.9%	12.5%	18.2%
性 別	男 性	40 人	2.5%	20.0%	50.0%	12.5%	15.0%
	女 性	48 人	2.1%	31.3%	33.3%	12.5%	20.8%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	0.0%	18.2%	45.5%	18.2%	18.1%
	40 歳代	19 人	5.3%	31.6%	26.3%	21.1%	15.7%
	50 歳代	22 人	0.0%	22.7%	45.5%	4.5%	27.3%
	60 歳代	22 人	4.5%	31.8%	36.4%	9.1%	18.2%
	70 歳以上	10 人	0.0%	20.0%	50.0%	20.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12 人	8.3%	50.0%	25.0%	8.3%	8.4%
	小倉北区	19 人	0.0%	26.3%	52.6%	10.5%	10.6%
	小倉南区	17 人	0.0%	23.5%	35.3%	23.5%	17.7%
	若 松 区	4 人	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	27.3%	63.6%	0.0%	9.1%
	八幡西区	18 人	0.0%	16.7%	50.0%	11.1%	22.2%
	戸 畑 区	7 人	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	57.1%

(5)難病患者の人に対する差別・偏見では、「1 よく感じることもある」(2.3%)と「2 ときどき感じることもある」(26.1%)を合わせて、28.4%となっています。

「1 よく感じることもある」と「2 ときどき感じることもある」との回答のうち、年代別では 40歳代が 36.9%と最も高くなっています。

問8 <問7で一つでも「1 よく感じることもある」又は「2 ときどき感じることもある」と答えた方におたずねします>

どのようなところに最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じますか(○はいくつでも)



※設問の回答には補足説明あり 1 仕事や収入(職場環境や就労条件、賃金など)

9 情報の提供(災害時などを含む)

10 住まいなどの契約(アパートやマンションなどの賃貸契約など)

		回答者数	1 仕事や収入	2 道路、建物の構造や設備	3 公共施設、交通機関	4 教育の機会	5 隣近所のつきあい	6 お店や各種窓口などでのサービス	7 サークル・スポーツへの参加	8 地域行事・地域活動	9 情報の提供	10 住まいなどの契約	11 その他	無回答
全 体		59人	52.5%	39.0%	42.4%	33.9%	27.1%	30.5%	11.9%	11.9%	16.9%	10.2%	5.1%	8.5%
性 別	男 性	22人	59.1%	18.2%	59.1%	31.8%	36.4%	40.9%	13.6%	22.7%	18.2%	9.1%	4.5%	13.6%
	女 性	37人	48.6%	51.4%	32.4%	35.1%	21.6%	24.3%	10.8%	5.4%	16.2%	10.8%	5.4%	5.4%
年 齢 別	20歳以下	2人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	9人	55.6%	33.3%	44.4%	44.4%	33.3%	22.2%	11.1%	22.2%	0.0%	11.1%	11.1%	22.2%
	40歳代	14人	50.0%	28.6%	14.3%	21.4%	21.4%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%
	50歳代	15人	46.7%	53.3%	40.0%	33.3%	26.7%	33.3%	13.3%	20.0%	20.0%	13.3%	13.3%	6.7%
	60歳代	14人	71.4%	42.9%	64.3%	50.0%	35.7%	50.0%	14.3%	14.3%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%
	70歳以上	5人	20.0%	40.0%	80.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区 別	門司区	9人	77.8%	33.3%	55.6%	44.4%	33.3%	55.6%	0.0%	11.1%	33.3%	22.2%	22.2%	0.0%
	小倉北区	15人	33.3%	40.0%	53.3%	33.3%	26.7%	53.3%	26.7%	26.7%	20.0%	0.0%	0.0%	13.3%
	小倉南区	12人	58.3%	41.7%	33.3%	33.3%	25.0%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	8.3%
	若松区	3人	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	6人	50.0%	50.0%	66.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	11人	63.6%	27.3%	18.2%	54.5%	18.2%	18.2%	9.1%	0.0%	9.1%	27.3%	0.0%	18.2%
	戸畑区	3人	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

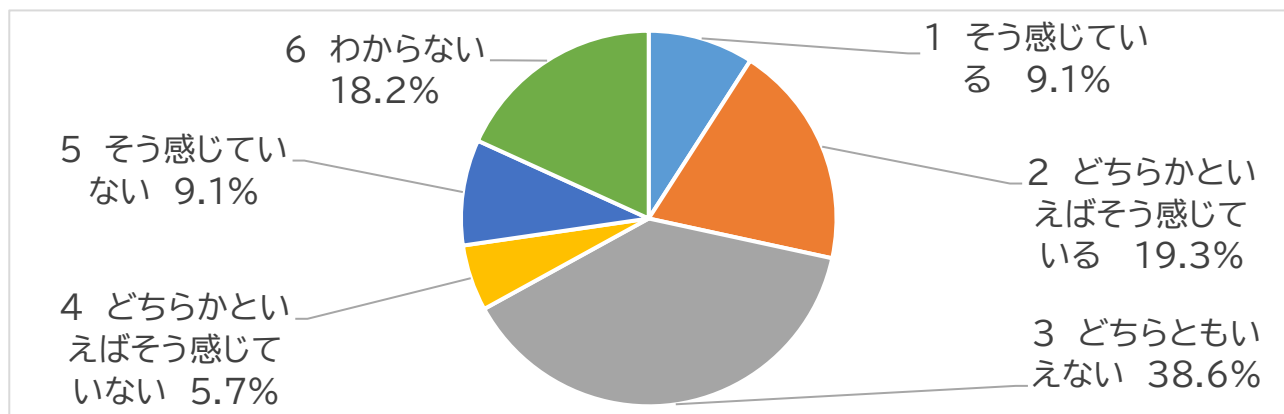
障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じている具体的な内容については、「1 仕事や収入」(52.5%)が最も高く、次いで「3 公共施設、交通機関」(42.4%)の順となっています。

2. 北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について

【障害のある人の雇用・就業機会の確保と拡大】

問9 北九州市では、働く意欲のある障害のある人の雇用を促進するため、障害者しごとサポートセンターを設置し、障害のある人への就労支援に取り組んでいます。

また、企業での障害のある人の雇用を促進するための取り組み、一般企業等での就労が困難な人に働く場を提供し、必要な支援を行う就労継続支援事業所等の充実などにも取り組んでいます。そこで、おたずねします。あなたは、北九州市では、障害のある人の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じますか。(○は1つだけ)



		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じていない	5 そう感じていない	6 わからない
全 体		88 人	9.1%	19.3%	38.6%	5.7%	9.1%	18.2%
性 別	男 性	40 人	7.5%	15.0%	45.0%	5.0%	10.0%	17.5%
	女 性	48 人	10.4%	22.9%	33.3%	6.3%	8.3%	18.8%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	9.1%	0.0%	72.7%	0.0%	9.1%	9.1%
	40 歳代	19 人	5.3%	26.3%	26.3%	5.3%	21.1%	15.7%
	50 歳代	22 人	9.1%	18.2%	36.4%	4.5%	9.1%	22.7%
	60 歳代	22 人	4.5%	27.3%	40.9%	9.1%	4.5%	13.7%
	70 歳以上	10 人	10.0%	10.0%	30.0%	10.0%	0.0%	40.0%
区 別	門 司 区	12 人	8.3%	25.0%	25.0%	8.3%	25.0%	8.4%
	小倉北区	19 人	10.5%	10.5%	42.1%	10.5%	5.3%	21.1%
	小倉南区	17 人	5.9%	23.5%	35.3%	0.0%	5.9%	29.4%
	若 松 区	4 人	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	36.4%	45.5%	9.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18 人	5.6%	11.1%	50.0%	5.6%	11.1%	16.6%
	戸 畑 区	7 人	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	14.3%	14.2%

障害のある人の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じるかについて、「1 そう感じている」(9.1%)、「2 どちらかといえばそう感じている」(19.3%)を合わせて 28.4%となり、「4 どちらかといえばそう感じていない」(5.7%)、「5 そう感じていない」(9.1%)を合わせた 14.8%を上回っています。

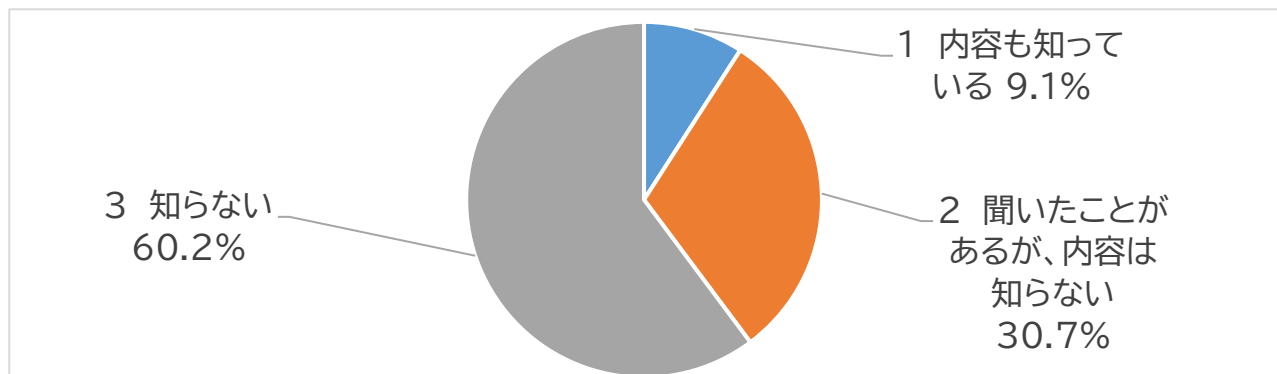
【障害者差別解消法や北九州市障害者差別解消条例の周知】

問10 平成28年4月1日、障害を理由とする差別を禁止して、障害のない人との平等な機会や待遇を保障するために「障害者差別解消法」が施行されました。

この法律は、差別を解消するための措置として、国・地方公共団体等及び民間事業者に対して「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」が義務付けられています。

また、本市では、「障害者差別解消法」を補完し、市、事業者および市民が協力して、「障害を理由とする差別」の解消に向け主体的に取り組み、共生社会の実現を目指すための「北九州市障害者差別解消条例」を制定しています。

あなたは、「障害者差別解消法」や「北九州市障害者差別解消条例」をご存知ですか(○は1つだけ)



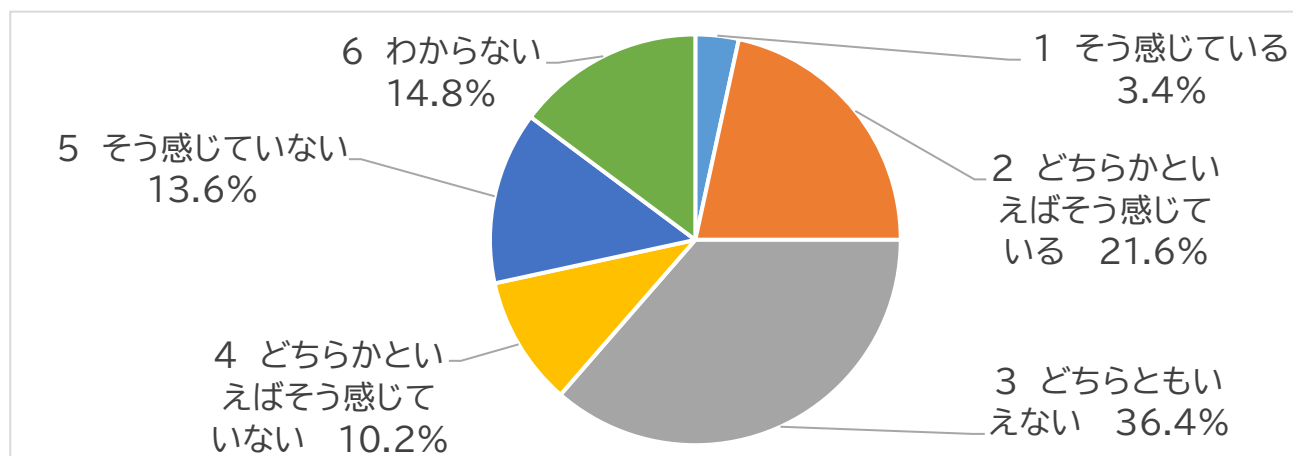
		回答者数	1 内容も知っている	2 聞いたことがあるが、内容は知らない	3 知らない
全 体		88 人	9.1%	30.7%	60.2%
性 別	男 性	40 人	12.5%	32.5%	55.0%
	女 性	48 人	6.3%	29.2%	64.5%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	25.0%	0.0%	75.0%
	30 歳代	11 人	18.2%	36.4%	45.4%
	40 歳代	19 人	0.0%	26.3%	73.7%
	50 歳代	22 人	9.1%	27.3%	63.6%
	60 歳代	22 人	13.6%	40.9%	45.5%
	70 歳以上	10 人	0.0%	30.0%	70.0%
区 別	門 司 区	12 人	8.3%	50.0%	41.7%
	小倉北区	19 人	10.5%	26.3%	63.2%
	小倉南区	17 人	5.9%	23.5%	70.6%
	若 松 区	4 人	0.0%	0.0%	100.0%
	八幡東区	11 人	9.1%	27.3%	63.6%
	八幡西区	18 人	16.7%	38.9%	44.4%
	戸 畑 区	7 人	0.0%	28.6%	71.4%

「障害者差別解消法」や「北九州市障害者差別解消条例」について知っているかについては、「1 内容も知っている」(9.1%)、「2 聞いたことがあるが、内容は知らない」(30.7%)を合わせて 39.8%に留まっており、「3 知らない」(60.2%)の方が、約 20 ポイント上回っています。

【障害のある人の人権の尊重】

問11 北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解を深め、障害の有無にかかわらず、お互いの人権を尊重できる社会を実現するため、行政だけでなく地域・学校・企業など様々な機会をとらえた市民啓発を推進しています。そこで、おたずねします。

北九州市では、障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透し、不当な差別的取扱いの無い、合理的な配慮が提供される社会になったと感じますか(○は1つだけ)

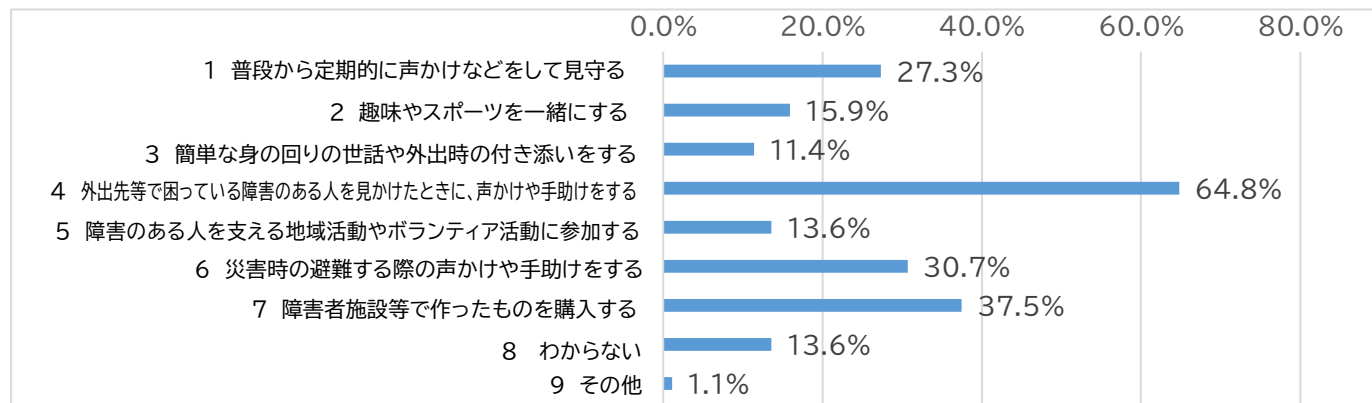


		回答者数	1 そう感じている	2 どちらかといえばそう感じている	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばそう感じていない	5 そう感じていない	6 わからない
全 体		88 人	3.4%	21.6%	36.4%	10.2%	13.6%	14.8%
性 別	男 性	40 人	2.5%	25.0%	37.5%	12.5%	17.5%	5.0%
	女 性	48 人	4.2%	18.8%	35.4%	8.3%	10.4%	22.9%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	9.1%	9.1%	27.3%	27.3%	9.1%	18.1%
	40 歳代	19 人	5.3%	10.5%	36.8%	10.5%	21.1%	15.8%
	50 歳代	22 人	0.0%	22.7%	45.5%	4.5%	9.1%	18.2%
	60 歳代	22 人	4.5%	27.3%	31.8%	0.0%	22.7%	13.7%
	70 歳以上	10 人	0.0%	20.0%	40.0%	30.0%	0.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12 人	8.3%	25.0%	16.7%	8.3%	25.0%	16.7%
	小倉北区	19 人	0.0%	21.1%	52.6%	15.8%	0.0%	10.5%
	小倉南区	17 人	5.9%	23.5%	35.3%	5.9%	11.8%	17.6%
	若 松 区	4 人	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%
	八幡東区	11 人	0.0%	54.5%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%
	八幡西区	18 人	0.0%	5.6%	55.6%	5.6%	16.7%	16.5%
	戸 畑 区	7 人	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	14.2%

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じるかについては、「1 そう感じている」は 3.4%でしたが、「2 どちらかといえばそう感じている」(21.6%)との肯定的な回答の合計 25.0%と、「4 どちらかといえばそう感じていない」(10.2%)、「5 そう感じていない」(13.6%)との否定的な回答の合計 23.8%を比べると、肯定的な回答が 1.2 ポイント上回っています。

3. 共生社会を実現するための取り組みについて

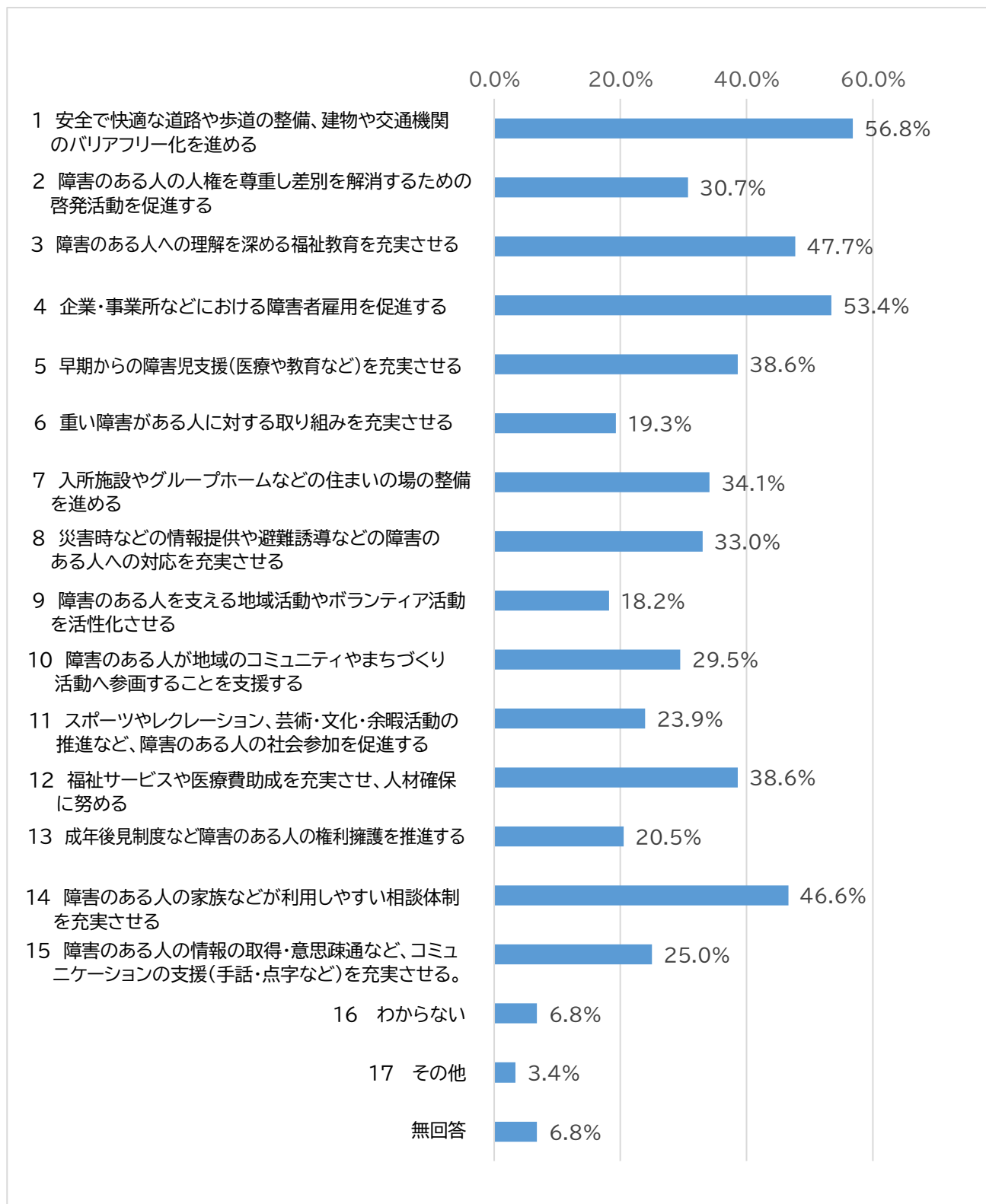
問12 北九州市では、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指しています。今後、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何ですか。次の中から、あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。



		回答者数	1 普段から定期的に声かけなどをして見守る	2 趣味やスポーツと一緒にする	3 簡単な身の回りの世話や外出時の付き添いをする	4 外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする	5 障害のある人を支える地域活動やボランティア活動に参加する	6 災害時の避難する際の声かけや手助けをする	7 障害者施設等で作ったものを購入する	8 わからない	9 その他
全 体		88人	27.3%	15.9%	11.4%	64.8%	13.6%	30.7%	37.5%	13.6%	1.1%
性 別	男 性	40人	32.5%	17.5%	10.0%	62.5%	20.0%	32.5%	27.5%	10.0%	2.5%
	女 性	48人	22.9%	14.6%	12.5%	66.7%	8.3%	29.2%	45.8%	16.7%	0.0%
年 齢 別	20歳代以下	4人	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	11人	18.2%	27.3%	9.1%	72.7%	27.3%	36.4%	54.5%	9.1%	0.0%
	40歳代	19人	26.3%	15.8%	26.3%	52.6%	10.5%	26.3%	42.1%	21.1%	0.0%
	50歳代	22人	18.2%	18.2%	4.5%	63.6%	18.2%	31.8%	36.4%	18.2%	4.5%
	60歳代	22人	40.9%	18.2%	9.1%	81.8%	13.6%	36.4%	36.4%	9.1%	0.0%
	70歳以上	10人	30.0%	0.0%	10.0%	50.0%	0.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%
区 別	門司区	12人	33.3%	0.0%	8.3%	66.7%	8.3%	33.3%	41.7%	16.7%	8.3%
	小倉北区	19人	26.3%	26.3%	5.3%	63.2%	21.1%	31.6%	47.4%	10.5%	0.0%
	小倉南区	17人	23.5%	17.6%	23.5%	82.4%	17.6%	47.1%	41.2%	5.9%	0.0%
	若松区	4人	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	八幡東区	11人	27.3%	0.0%	9.1%	90.9%	9.1%	63.6%	36.4%	9.1%	0.0%
	八幡西区	18人	33.3%	22.2%	16.7%	44.4%	5.6%	5.6%	38.9%	11.1%	0.0%
	戸畑区	7人	14.3%	14.3%	0.0%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	0.0%

共生社会を実現するにあたって、あなた自身が地域の一員としてできると思うことは何かについては、「4 外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする」(64.8%)の割合が最も高く、次いで「7 障害者施設等で作ったものを購入する」(37.5%)、「6 災害時の避難する際の声かけや手助けをする」(30.7%)の順となっています。

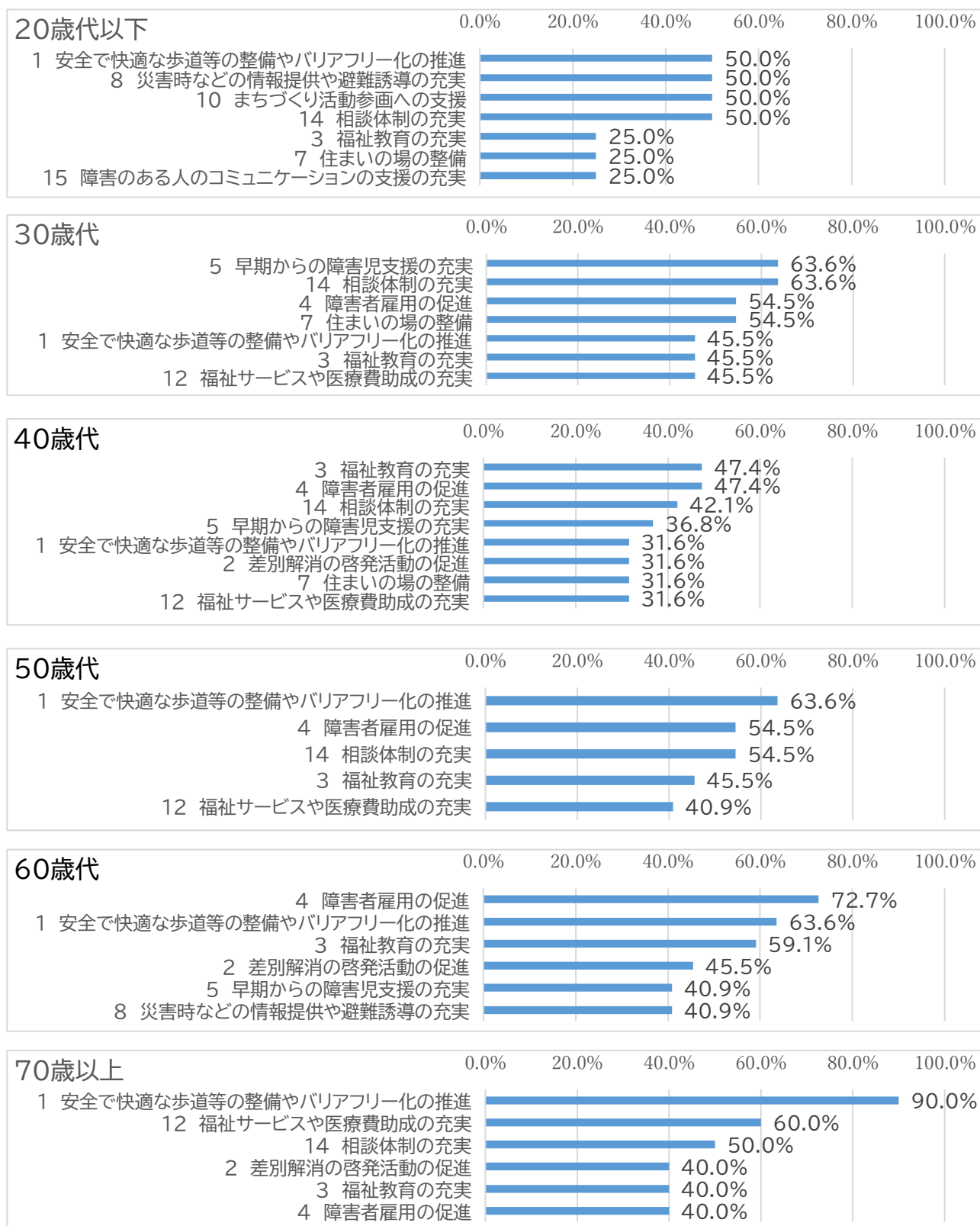
問13 あなたは、障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後、特に力を入れるべき取り組みは何だと思いますか。次の中から、あてはまるものを選んでください(○はいくつでも)。



		回答者数	1 安全で快適な歩道等の整備やバリアフリー化の推進	2 差別解消の啓発活動の促進	3 福祉教育の充実	4 障害者雇用の促進	5 早期からの障害児支援の充実	6 重い障害がある人に対する取り組みの充実	7 住まいの場の整備	8 災害時などの情報提供や避難誘導の充実	9 地域活動やボランティア活動の活性化
全 体		88 人	56.8%	30.7%	47.7%	53.4%	38.6%	19.3%	34.1%	33.0%	18.2%
性 別	男 性	40 人	60.0%	30.0%	45.0%	50.0%	32.5%	22.5%	27.5%	37.5%	20.0%
	女 性	48 人	54.2%	31.3%	50.0%	56.3%	43.8%	16.7%	39.6%	29.2%	16.7%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	45.5%	27.3%	45.5%	54.5%	63.6%	18.2%	54.5%	36.4%	27.3%
	40 歳代	19 人	31.6%	31.6%	47.4%	47.4%	36.8%	15.8%	31.6%	21.1%	15.8%
	50 歳代	22 人	63.6%	18.2%	45.5%	54.5%	36.4%	13.6%	31.8%	31.8%	18.2%
	60 歳代	22 人	63.6%	45.5%	59.1%	72.7%	40.9%	27.3%	27.3%	40.9%	22.7%
	70 歳以上	10 人	90.0%	40.0%	40.0%	40.0%	30.0%	30.0%	20.0%	30.0%	10.0%
区 別	門 司 区	12 人	83.3%	33.3%	58.3%	75.0%	75.0%	58.3%	50.0%	50.0%	25.0%
	小倉北区	19 人	63.2%	26.3%	42.1%	57.9%	31.6%	21.1%	31.6%	26.3%	26.3%
	小倉南区	17 人	47.1%	29.4%	41.2%	52.9%	29.4%	5.9%	35.3%	35.3%	11.8%
	若 松 区	4 人	25.0%	25.0%	75.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%
	八幡東区	11 人	72.7%	45.5%	54.5%	54.5%	36.4%	18.2%	45.5%	63.6%	18.2%
	八幡西区	18 人	44.4%	22.2%	38.9%	38.9%	38.9%	0.0%	16.7%	11.1%	5.6%
	戸 畑 区	7 人	42.9%	42.9%	57.1%	57.1%	28.6%	28.6%	42.9%	28.6%	28.6%

		回答者数	10 まちづくり活動参画への支援	11 スポーツなど社会参加を促進	12 福祉サービスや医療費助成の充実	13 障害のある人の権利擁護の推進	14 相談体制の充実	15 障害のある人のコミュニケーションの支援の充実	16 わからない	17 その他	無回答
全 体		88 人	29.5%	23.9%	38.6%	20.5%	46.6%	25.0%	6.8%	3.4%	6.8%
性 別	男 性	40 人	30.0%	27.5%	37.5%	17.5%	37.5%	15.0%	2.5%	5.0%	7.5%
	女 性	48 人	29.2%	20.8%	39.6%	22.9%	54.2%	33.3%	10.4%	2.1%	6.3%
年 齢 別	20 歳代以下	4 人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30 歳代	11 人	36.4%	36.4%	45.5%	36.4%	63.6%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%
	40 歳代	19 人	21.1%	15.8%	31.6%	21.1%	42.1%	26.3%	15.8%	0.0%	15.8%
	50 歳代	22 人	31.8%	22.7%	40.9%	18.2%	54.5%	27.3%	4.5%	9.1%	4.5%
	60 歳代	22 人	27.3%	31.8%	36.4%	18.2%	31.8%	27.3%	4.5%	0.0%	0.0%
	70 歳以上	10 人	30.0%	20.0%	60.0%	20.0%	50.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
区 別	門 司 区	12 人	50.0%	33.3%	58.3%	25.0%	66.7%	25.0%	8.3%	16.7%	0.0%
	小倉北区	19 人	21.1%	26.3%	42.1%	15.8%	52.6%	15.8%	0.0%	0.0%	10.5%
	小倉南区	17 人	35.3%	11.8%	35.3%	23.5%	29.4%	29.4%	5.9%	5.9%	5.9%
	若 松 区	4 人	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	11 人	18.2%	36.4%	36.4%	27.3%	54.5%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡西区	18 人	22.2%	16.7%	27.8%	11.1%	44.4%	22.2%	5.6%	0.0%	16.7%
	戸 畑 区	7 人	42.9%	28.6%	42.9%	28.6%	42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%

年齢別の上位の回答



北九州市が特に力を入れるべき取り組みは何かについて、「1 安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」(56.8%)、の割合が最も高く、次いで「4 企業・事業所などにおける障害者雇用の促進する」(53.4%)、「3 障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(47.7%)の順となっています。

問14 北九州市の障害福祉施策について、その他ご意見がありましたらご自由にご記入ください。

24 件の意見をいただきました。主なものは次のとおりです。(原文のまま引用)

〔行政の取り組みに関する事〕

- 北九州市の障害福祉施策は、常に受け身だと感じている。
- 障害者の方が健常者と同様ということまでは言いませんけどもやはり対策が遅れていると思います。予算的なこともあるんでしょうけども周囲の人たちの啓発、人をいたわる思いやるそういうような啓発教育が必要だと思います。
- しょうがい者のご家族へのサポート体制を整えていただきたい。金銭面以外でも気軽に預ける場や交代で見てくれる方にすぐに頼める体制など

〔就労に関する事〕

- 障害者が無理なく働ける場をもっと提供することと、雇用する企業やNPO法人に対しては、資金援助を手厚くするなどの優遇措置をより充実させる必要があると思います。

〔共生社会を実現するための取り組みに関する事〕

- 障害者の方も、してもらえることが当たり前にならないように、健常者と障害者が共生できる環境が必要だと思います。また、障害者の方からヘルプサインが健常者に分かるような方法があると健常者の方も、助ける場合かどうか迷うこともあると思います。
- 障害者という言葉が普通に目にするようになり、世の中に当たり前に存在しているようになってきていると感じます。
- 手話や点字など小学校のレクの一環として広めていただけたらよりお互いの理解が深まるのではと思います。
- 比較的目立つバリアフリーと公共交通について。主要な駅の周辺などではエレベーターや誘導ブロックの整備が進んでおり、全体に改善ができていますが、その他の場所では駅からバス停や商業施設までの経路に段差や狭い歩道が多い。車椅子での安全な移動はかなり困難であろう。歩道拡幅や段差解消が必要である。またバス車輛のノンステップ化率は高いものの、乗降時のサポートは不足している。完全に運転士だけに任されている状況である。乗降補助員の配置は難しいであろうか。
- 見ていて「障害者は本当に大変だなあ」と感じたのは、全盲の人が一人でバスを降りる時だった。乗る時は運転手が入口マイクで声掛けしてくれて判り易そうだったが、降りる時は降車用ステップから地面までの高さが判り難く、見ていてハラハラした。バス降車部下面にセンサーを設置し、ステップから降り先地面までの高差を自動検出し「降り先地面まで高差〇〇cm」的な音声ガイドが流れれば、全盲者にとって非常に助かると思う。
- 社会全体でとりくみ、見守りが必要だと感じます。その方にしかわからない状態や状況があると思うので、手を差し伸べるだけでなく、尊重しながらお互いに気持ちよく生活できるような、専門家の支援や相談をしやすい社会であることが望ましいと思う。

IV 全体考察

本市では、令和5年度に障害者基本法に基づく障害福祉分野の基本計画として、「北九州市障害者支援計画(令和6年度～令和11年度)」を策定しました。これは、「障害者基本法(第11条)」に規定された本市の障害者施策に関する基本的な計画である「市町村障害者計画」と、「障害者総合支援法(第88条)」に規定された、障害福祉サービス等の見込み量やその確保のための方策などを定めた「市町村障害福祉計画(第7期)」、「児童福祉法(第33条)」に規定された「市町村障害児福祉計画(第3期)」を包含した計画です。

今回、現行の「北九州市障害福祉計画(第7期)」、「北九州市障害児福祉計画(第3期)」が令和8年度で計画期間が終了することから、令和9年度を初年度とする「(仮称)北九州市障害者支援計画改定版」を、令和8年度中に策定する予定です。

本アンケートは障害福祉施策に関する市民の意見やご要望を伺い、その結果を次期計画の基礎資料とするとともに、今後の本市の障害福祉施策の推進の参考とするため実施したものです。

【障害のある方への理解や関心について】

障害のある人に接したり、交流したりした経験がある人は、全体の 88.6%で、そのうち身体障害がある人に接したり、交流した割合が 82.1%と最も高くなっています。具体的な内容としては、令和4年度に実施した前回アンケートで最も答えが多かった「身内や親しい人に障害のある人がいる」(41.0%)に代わり、「仕事で障害のある人と接している。または、過去、接したことがある」(51.3%)の回答が最も多くなりました。

一方で、障害のある人に接したり、交流したりした経験がない人の多くが、その理由として、「接する機会やきっかけがなかった」(90.0%)と回答しています。

また、障害福祉への関心度は、「大変関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると 72.8%となり、その理由として、前回アンケートで最も答えが多かった「自分も障害のある人になる可能性がある」(35.9%)に代わり、「身内や親しい人、隣近所に障害のある人がいる」(43.8%)の回答が多くなっており、障害のある方に接したり目にしたりする機会が増え、身近なテーマになっているとうかがえます。

日常生活や地域で障害のある方に対する差別・偏見などを感じることもある人は、「よく感じることもある」、「ときどき感じることもある」を合わせた場合、「身体障害のある人」では 42.1%、「知的障害のある人」では 55.7%、「精神障害のある人」では 56.9%、「発達障害のある人」では 53.5%、「難病患者の人」では 28.4%となっています。障害種別によって、比較的ばらつきがあることが分かりました。

具体的に、どのようなところに最も強く障害のある人に対する差別・偏見、または配慮のなさを感じるか尋ねたところ、「仕事や収入(職場環境や就労条件、賃金など)」(52.5%)の回答が最も多く、次いで「公共施設、交通機関」(42.4%)、「道路、建物の構造や設備」(39.0%)の順となっています。

【北九州市の障害福祉施策の取り組み状況について】

北九州市がこれまで取り組んできた障害福祉施策の中から3つの施策をあげて、施策の取り組みに対する評価等についてたずねました。

障害者の意欲や能力に応じた多様な就業機会が確保されてきたと「感じている」人の割合(「どちらかといえばそう感じている」を含む。)は 28.4%、「感じていない」人の割合(「どちらかといえばそう感じていない」を含む。)は 14.8%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っています。

一方で、「どちらともいえない」の回答が 38.6%と一定数あるため、今後一層の取り組みが必要であると考えられます。

障害者差別解消法や本市の障害者差別解消条例については、「知っている」人の割合（「聞いたことがあるが内容は知らない」を含む。）は、39.8%であり、「知らない」人の割合は 60.2%となっているため、今後一層の周知啓発が必要であると考えられます。

障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと「そう感じている」人の割合（「どちらかといえばそう感じている」を含む。）は、25.0%であり、「感じていない」人の割合（「どちらかといえばそう感じていない」を含む。）は 23.8%となり、肯定的に感じている人の割合がそう感じていない人の割合を上回っています。

一方で、「どちらともいえない」の回答が 36.4%と最も高くなっているため、今後一層の取り組みが必要であると考えられます。

【共生社会を実現するために必要な取り組みについて】

障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを目指している本市において、地域で生活する障害のある人とかかわっていく中で、自分自身が地域の一員としてできると思うことを尋ねたところ、「外出先等で困っている障害のある人を見かけたときに、声かけや手助けをする」人の割合が 64.8%と最も多く、多くの方が外出先等で障害のある人が困っているときにかかわることができると考えていることが分かりました。

一方で、「障害のある人を支える地域活動やボランティア活動に参加する」(13.6%)、「簡単な身の回りの世話や外出時の付き添いをする」(11.4%)など、障害のある人の生活を直接手助けするようなかわりには、消極的な回答でした。

障害福祉施策を充実させるために北九州市が取り組むもののうち、今後さらに力を入れるべき取り組みを尋ねたところ、「安全で快適な道路や歩道の整備、建物や交通機関のバリアフリー化を進める」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「企業・事業所などにおける障害者雇用を促進する」(53.4%)、「障害のある人への理解を深める福祉教育を充実させる」(47.7%)、と続いています。これらについては、これまでも取り組んできた施策でしたが、今後も引き続き充実を図っていく必要があることが分かりました。

【その他ご意見について】

北九州市の障害福祉施策について、24 件のご意見をいただきました。

障害があっても一人の市民として、自分らしく生活できる地域社会の実現を進めるため、今後の障害福祉施策の参考としていきます。

【まとめ】

今回のアンケートでは、障害のある人への理解や関心、障害福祉施策の取組や共生社会を実現するための取組について、現時点で市民の実感を確認することができました。アンケート結果を「(仮称)北九州市障害者支援計画改定版」の策定にあたって参考とするとともに、障害の有無にかかわらず、すべての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことのできる共生のまちづくりを進めるため、今後の障害福祉施策の推進に活かしていきます。

【市政モニターに関すること】

総務市民局広聴課（TEL：093-582-2527）

【アンケートに関すること】

保健福祉局障害福祉企画課（TEL：093-582-2453）

令和7年12月24日

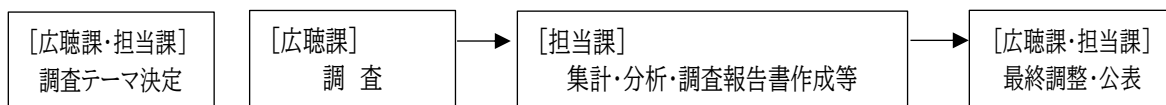
総務市民局広聴課

市政モニター制度について

1. 市政モニター制度の概要

市の様々な施策を進めるうえで、満足度や実感などの市民の声を参考とするため、毎年、公募により18歳以上の市民の方(定員150人以内)を対象に、市政モニターとして様々な分野のアンケートに協力していただいています。

2. 市政モニター調査の作業工程について



3. 令和7年度 市政モニターアンケート調査 実施予定及び公表予定

回	実施時期	件名	担当課	回収率	公表予定
1	6月2日～6月13日	地球温暖化対策に関する意識調査	環境局グリーン成長推進課	94.1%	7月
1	6月2日～6月13日	北九州市の観光振興について	都市ブランド創造局インバウンド課	93.1%	7月
2	6月16日～6月27日	北九州市の財政状況に関する意識調査	財政・変革局財政課	89.2%	9月
3	7月1日～7月14日	防災ガイドブック・ハザードマップについて	危機管理室危機管理課	87.3%	9月
4	7月15日～7月28日	生涯学習に関する意識調査	総務市民局生涯学習課	93.1%	10月
5	8月5日～8月18日	モラル・マナーアップについて	総務市民局安全・安心推進課	91.2%	10月
6	8月21日～9月2日	北九州市の海辺に関する意識調査	港湾空港局計画課	87.3%	11月
7	9月11日～9月24日	暴力追放運動について	総務市民局安全・安心推進課	89.2%	12月
8	10月1日～10月14日	障害福祉施策について	保健福祉局障害福祉企画課	86.3%	12月
9	11月4日～11月17日	北九州市の生物多様性について	環境局ネイチャーポジティブ推進課	—	1月
10	12月1日～12月12日	認知症支援・介護予防に関する意識調査	保健福祉局認知症支援・介護予防課	—	2月
11	12月15日～12月26日	北九州市内の身近な公園に関するアンケート	都市戦略局緑政課	—	3月

※上記については、変更の可能性があります。